

# 四国地区国立大学放送公開講座「黒潮のめぐみ」 (テレビ科目)の大学授業への活用に関する研究

高知大学農学部教授 谷 口 順 彦

## 1. はじめに

平成5年度の四国地区国立大学放送公開講座は、四国地区の7つの国立大学が昭和61年度から輪番制をとりながら大学間協力を得て実施してきたことは周知の事実である。平成5年度からいよいよ2巡目に入り、本年度は高知大学が担当することになり、前回の経験を活用しながら計画および実施が行われた。テレビ科目は高知大学の地域的特性を反映した内容となった。高知大学の理学部、農学部の自然系および人文系の教官からなる黒潮圏研究所の日頃からの研究教育活動を土台にし、それらを総合化した内容からなる「黒潮のめぐみ」を企画・放映した。番組の製作・放送は高知放送が担当し、公開講座用印刷教材はテレビ科目実施委員会のテキスト作成部会が担当した。テキストの執筆は各回の講師が、それらの編集はテキスト担当部会が、テキストの製作は高知新聞企業出版部が担当した。

テレビ科目の研究課題は公開講座第1回から第13回のビデオ(表1)およびテキストを大学授業において利用した場合、どのような効果がえられるかということについて調査研究することにある。

表1. テレビ講座「黒潮のめぐみ」の内容

放送日	テ　　マ	講　　師
第1回	The Kuroshio [ザ・クロシオ] ーそのふるまいと土佐湾への影響ー	淡 路 敏 之 (京都大学助教授) 斉 藤 勉 (南西海区水産研究所)
第2回	海陸風を探る ー海面と陸地面上の大気の相互作用ー	山 口 信 之 (高知大学教授) 千 葉 修 (高知大学教授)
第3回	海は作られる ー西南日本周辺海域の新しい地殻変動ー	岡 村 眞 (高知大学教授)
第4回	露岩が語りかける ー海に向かって成長する四国ー	波 田 重 熙 (高知大学教授) 平 朝 彦 (東京大学教授)
第5回	黒潮からの贈り物 ーその生物と人間のかかわりー	坂 本 正 夫 (高知大学非常勤講師) 山 田 幸 宏 (淡路獨協大学教授) 吉 成 直 樹 (高知大学助教授)
第6回	海を渡ったカサボコ ー沖の島の盆行事と土佐の念仏芸能ー	梅 野 光 興 (高知県立歴史民俗資料館) 井 出 幸 男 (高知大学助教授)
第7回	異国船の脅威 ー幕末土佐藩の海防政策とその影響ー	福 地 惇 (高知大学教授)

放送日	テ　　マ	講　　師
第 8 回	土佐の一本釣り ーカツオ漁業の現状と海洋資源ー	大 野 晃 (高知大学教授) 田 村 安 興 (高知大学教授)
第 9 回	黒潮の生き物たち ーサンゴの海とマングローブ林のロマンー	大 野 正 夫 (高知大学教授) 町 田 吉 彦 (高知大学教授) 三 好 英 夫 (高知大学教授)
第10回	黒潮の魚たち ー魚類相とウナギの旅ー	岡 村 収 (高知大学教授) 塚 本 勝 巳 (東京大学助教授)
第11回	資源回復への道 ー生態ピラミッドと栽培漁業ー	谷 口 順 彦 (高知大学教授) 山 岡 耕 作 (高知大学助教授)
第12回	深層海水 ー豊かな海の資源をいかに利用するかー	西 島 敏 隆 (高知大学教授) 高 橋 正 征 (東京大学助教授) 楠 田 理 一 (高知大学教授)
第13回	黒潮・人・いきもの ー3つのアプローチー	波 田 重 熙 (高知大学教授) 大 脇 保 彦 (高知大学教授) 岡 村 収 (高知大学教授)

## 2. 調査方法

利用科目：平成5年度および6年度において、高知大学における一般教育科目および各学部の専門科目の授業にテレビ講座のテキストおよびビデオテープの利用を予定した科目は延べ10科目、学外で1科目、合計11科目である（表2）。

表2. 平成5年度放送公開講座教材等の授業への活用に関する調査（テレビ講座「黒潮の恵み」）  
（高知大学）

活用できる授業科目	対象学生	学生数	開設予定時期	担当教官
変動する四国	一般教育	280	平5年度後期	理学部 教授 波 田 重 熙
構造地質学	専門 (2.3.4)	50	平5年後期	理学部 教授 波 田 重 熙
黒潮圏の地球科学	一般教育 1回生	100	平成6年前期	理学部 教授 岡 村 真
栽培漁業学概論	専門：栽漁1回生	35	平成5年後期 又は6年後期	農学部 教授 谷 口 順 彦
海洋生物生態学	専門：栽漁2回生	35	平成5年後期	農学部 助教授 山 岡 耕 作
海洋植物学 (1)(2)	専門：理生物学科	40	平成6年前期・後期	海洋センター教授 大 野 正 夫

活用できる授業科目	対象学生	学生数	開設予定時期	担当教官
水産植物学	専門：農栽漁学科	40	平成6年前期	海洋センター教授 大野正夫
海洋の科学	一般教育 1回生	100	平成6年前期	海洋センター教授 大野正夫
大気の物理学	専門：理3.4回生	30	平成5年後期	理学部 教授 千葉修

(他大学での活用)

活用できる授業科目	対象学生	学生数	開設予定時期	担当教官
応用生物学	高知女子大学	30	平成6年後期	農学部 教授 谷口順彦

対象：一般教育、理学部、農学部および海洋生物教育研究センターの学部学生、1190名（予定数）。これらを講義に利用予定の、教官数は延べ10名。これらの他、高知大学以外で1科目、学生数30名がある。

授業内容：テレビ公開講座の第2回が「大気の物理学（理学部専門）」に、第3回が「黒潮圏の地球科学（一般教育）」に、第4回が「変動する日本列島（一般教育）」および「構造地質学（理学部専門）」に、第9回が「海洋植物学（農学部専門）」に、第10回が「海洋の科学（理学部専門）」、第11回が「栽培漁業学概論（農学部専門）」および「海洋生物生態学（農学部専門）」に利用される。これらの内、第2回、第4回、第11回は既に授業への利用と調査が実施済みであるので、これら2回分について、調査結果をまとめ、報告をする。

調査目的および目標：第2回、第4回、第11回の講座に関してビデオが視覚教材として当該授業の内容の理解を深めるのにどのように役立っているかを明らかにする。また、授業におけるそれらのビデオの視覚教材としての必要性について検討する。

調査方法：当該授業を実施した後、ビデオを視聴させ、アンケートによりビデオの内容および授業の課題に対する理解度の向上について調べる。アンケートの項目は表3のとおりである。テキストについては、スクーリング参加者のアンケート結果を採用した。

表3 テレビ講座用のアンケート用紙

#### 放送利用に関するアンケート調査

この調査は、大学放送公開講座の番組（テレビ番組）を、大学の授業に活用することによって、どのような効果があるかについて、視聴者のご意見をお聞きするものです。各問いにお答えください。

問1 あなたが聴いた番組はどれですか。該当するものに○をつけてください。

- 1 The kuroshio - そのふるまいと土佐湾への影響 -
- 2 海面と陸地面上的大気の相互作用 - 土佐の気象 -
- 3 海は作られる - 西日本周辺海域の新しい地殻変動 -
- 4 海に向かって成長する四国 - 四万十帯付加体 -
- 5 黒潮からの贈り物 - その生物と人間のかかわり -
- 6 沖ノ島の盆・カサボコ

- 7 幕末土佐藩知識人の対外観の形成 ―黒潮の彼方への知的関心―
- 8 土佐のカツオの一本釣り漁法と海洋資源
- 9 黒潮の生き物たち
- 10 黒潮の魚たち
- 11 生態ピラミッドと栽培漁業
- 12 深層海水 ―豊かな海の資源をいかに利用するか―
- 13 黒潮・人・いきもの

問2 番組を聴いて、どのように思いましたか。それぞれの項目について最もよく当てはまる段階の数字に○をつけて下さい。

	よく当てはまる	.....	4				
	やや当てはまる	.....	3				
	あまり当てはまらない	.....	2				
	まったく当てはまらない	.....	1				
1	わかりやすかった	.....	4	3	2	1	
2	自分に関心のある内容であった	.....	4	3	2	1	
3	新しい知識が得られた	.....	4	3	2	1	
4	学習の参考になると思った	.....	4	3	2	1	
5	自分のためになると思った	.....	4	3	2	1	
6	実際に役にたつ内容であった	.....	4	3	2	1	
7	他の人にも聴かせたい内容であった	.....	4	3	2	1	
8	番組だけでは理解できないところがあった	.....	4	3	2	1	
9	さらに学習しようという意欲が起きた	.....	4	3	2	1	
10	授業でこのような番組を使ったらよい	.....	4	3	2	1	

問3 この番組を聴いての感想や意見を下に自由に書いてください。

### 3. 結果および考察

#### 1) 事例1

テレビ講座第2回「海陸風を探る―海面と陸地面上の大気の相互作用」は高知大学理学部の専門科目の講義「大気物理学」の93年12月8日の授業において利用された(担当:高知大学理学部千葉修教授)。受講対象は理学部物理学科の3-4回生で、34名が受講した。

授業内容の要旨:海に囲まれ、しかも複雑な地表形態からなる日本では、各地域で特有の風系が形成されている。その中で特に海陸の温度差に起因する、一つの局地風としての海陸風について延べる。海風及び陸風の循環は、各々単独の気象現象ではない。まず、海風-陸風と谷風-山風との関係、海風-陸風と一般風の関係など、これら相互の関係を解明している必要がある。次に海風の乱流観測とアメダスデータ解析から知り得た高知県の海風について黒潮との関係を交えて説明する。重力流の一面を持つ海風や陸風の性質について、シンプソン博士の研究から紹介し、さらに高知大学理学部大気境界層観測所で得られた海風の特徴や乱流構造について言及する。地球表面が一様ならば緯度のみの関係になるが水陸分布、海流の存在で複雑多様な気候が成り立っている。

日本は黒潮により大量の熱と水蒸気の供給を受け、夏の台風、冬の季節風と季節変化が明瞭である。四国南岸の気候特性について海との関連させて考える。

表 4. 事例 1 (海面と陸地面上の大気の相互作用－土佐の気象－) についてのアンケート結果

質 問 事 項	4	3	2	1	N
1. わかりやすかった	33	40	27	0	15
2. 自分に関心のある内容であった	47	27	20	6	15
3. 新しい知識が得られた	40	47	13	0	15
4. 学習の参考になったと思った	33	60	7	0	15
5. 自分のためになったと思った	47	33	20	0	15
6. 実際に役にたつ内容であった	20	33	40	7	15
7. 他の人にも聴かせたい内容であった	0	40	53	7	15
8. 番組だけでは理解できないところがあった	33	53	13	0	15
9. さらに学習しようという意欲が起きた	27	40	20	13	15
10. 授業でこのような番組を使ったらよい	47	47	7	0	15

学生の反応：ビデオ視聴についての学生の反応は以下のとおりである(表 4)。内容がわかりやすかったか(1)、関心のある内容であったか(2)、新しい知識を得ることが出来たか(3)、学習の参考になったか(4)、自分のためになったか(5)、これを機にさらに深く勉強しようと思ったか(9)などの質問項目についてはそのように思うという肯定的回答が多く、講義内容に対して高い評価が与えられた。これは日常の講義では見られない種々の視覚教材が授業内容の理解に役だったことを反映したものと考えられる。

実際に役立つ内容だったか(6)、他の人にも聞かせたい内容か(7)の問いにはそうは思わないという答えが少なくなかった。これは講義の内容が基本的、理学的な性格を帯びている上に、そもそも専門的にレベルの高い内容が含まれており、それらを、正確に理解することが容易でなかったという学生自身の感想を反映したと思われる。このことは、この番組だけでは理解出来なかった所があったか(8)の問いに同意する回答が多かったことにも表れている。

このような番組を授業で使ったらよいかの問い(10)に肯定する回答が多かった。このことは学生達がビデオの内容に興味を持ち、ビデオ利用の意義をよく認めていたことを示唆している。

アンケートの末尾の感想や意見の記入項目においては、学生たちがビデオの内容に対して深い関心を示しただけでなく、ビデオの製作技術や編集技術にまでそれぞれの意見を述べている。このことはビデオ製作面においてまだまだ改良の余地のあることを示唆している。

## 2) 事例 2.

テレビ講座第 4 回講義「海に向かって成長する四国－四万十帯付加体」は高知大学の一般教育、自然分野の講義「変動する日本列島」の94年1月10日の授業において利用された(担当：高知大学理学部波田重熙教授)。受講対象は一回生から四回生を含む教養と専門課程の学生で、187名が受講した。

授業内容の要旨：四国の海岸を歩くと、玄武岩溶岩が水中で噴出して出来た「枕状溶液」や放散虫の殻を多量に含む「チャート」の大小の岩魂にしばしばでくわす。日本列島の太平洋に、

南西諸島から房総半島まで1600キロメートルにわたってのびる「四万十帯」には、同じような岩石が分布して「付加体」と呼ばれている。付加体とは海洋プレートの沈み込みに伴って、海洋プレートの一部（枕状溶岩）やその上の堆積物（チャートなど遠洋～半遠洋堆積物と海溝充填堆積物）が付け加わって形成された地層である。すなわち、フィリピン海プレートが沈み込んでいる「南海トラフ」で現在も進行しつつあるプロセスが何百万年、何千万年と続くことによって、日本列島の太平洋側の陸地が徐々に形成されたことが明確になってきた。私達が日常見かける、一見地味な崖や海岸の露岩が語りかけてくれる悠久たる自然の営みを、南海トラフにおける海底調査によって次々と明らかになってきた新事実と対照させながら考察する。

表5. 事例2（海に向かって成長する四国－四万十帯付加体－）についてのアンケート結果

質 問 事 項	4	3	2	1	N
1. わかりやすかった	39.4	51.5	8	1	99
2. 自分に関心のある内容であった	19.6	46.4	31.3	1	97
3. 新しい知識が得られた	53.2	40.4	5.3	1	94
4. 学習の参考になると思った	63.1	30.5	5.2	1	95
5. 自分のためになると思った	28.4	44.2	25.2	2	95
6. 実際に役にたつ内容であった	18.3	37.9	35.8	7.4	95
7. 他の人にも聴かせたい内容であった	15.1	42.4	35.3	7	99
8. 番組だけでは理解できないところがあった	13.4	44.3	34	8.2	97
9. さらに学習しようという意欲が起きた	15.4	48	33.6	3	104
10. 授業でこのような番組を使ったらよい	60.8	30.9	6.2	2.1	97

学生の反応：ビデオ視聴についての学生の反応は以下のとおりである（表5）。内容がわかりやすかったか(1)の質問に肯定的回答が多かった。関心のある内容であったか(2)に対しては、否定的な回答が多少あったが、新しい知識を得ることが出来たか(3)、学習の参考になったか(4)、自分のためになったか(5)などの質問項目については肯定的回答が多かった。これは、学生達がこのビデオを通じて講義内容に対してあらためて興味を持ったことを示している。これは日常の講義では見られない種々の資料や映像が授業内容の理解に役だったことを反映したものと考えられる。

実際に役立つ内容だったか(6)、他の人にも聞かせたい内容か(7)の問いに対しては事例1の場合と同じく、否定的回答が少なくなかった。これは講義の内容が基礎的、理学的な性格を帯びている上に、そもそもレベルの高い内容を正確に理解することが容易でなかったという学生自身の感じ方の反映と思われる。このことはこの番組だけでは理解出来なかった所があったか(8)の問いに同意する回答が多かったことにも表われている。

このような番組を授業で使ったらよいかの問(10)に対して、事例1の場合と同じく、同意する回答が多かった。このことは学生達がビデオの内容に興味を持ち、ビデオ利用の意義をよく認めていたことを示唆している。

アンケートの末尾の感想や意見の記入項目を見ると、学生たちがビデオの内容に対して深い関心と興味を示したことが伝わってくる。ビデオの製作技術や編集技術にまでそれぞれの意見をのべていることはビデオ製作の面でまだまだ改良の余地のあることを示唆している。

### 3) 事例3

テレビ講座第11回講義「資源回復への道—生態ピラミッドと栽培漁業」は高知大学農学部の特設科目の講義「栽培漁業学概論」の94年1月19日の授業において利用された（担当：高知大学農学部谷口順彦教授）。受講対象は一回生で、31名が受講した。

授業の内容の要旨：1976年、海洋法会議において200海里の経済水域が設定されて以来、日本の漁業は外国の沿岸域から締め出されたばかりか、外国から輸入される低価格の冷凍魚や鮮魚の圧迫を受けるようになった。しかし、200海里体制は日本にマイナスの影響ばかり与えたわけではない。これにより、日本は国土の12倍の広さの沿岸水域を独自の経済水域として占有するに至り、この水域の有効利用と管理が緊急の課題となっている。しかし、日本の沿岸域ではマダイ、ヒラメ、クルマエビ、アワビといった重要魚介類資源が枯渇してしまっており、これらの資源の回復を計る必要性に迫られるようになった。ここで、養殖漁業を含む栽培漁業の理論と実際について解説し、今後の発展が望まれる沿岸漁業、とりわけ、高級魚生産を中心に据えた漁家漁業の在り方について考える。

表6. 事例3（生態ピラミッドと栽培漁業）についてのアンケート結果

質 問 事 項	4	3	2	1	N
1. わかりやすかった	42	58	0	0	31
2. 自分に関心のある内容であった	42	48	10	0	31
3. 新しい知識が得られた	58	35	6	0	31
4. 学習の参考になったと思った	65	35	0	0	31
5. 自分のためになったと思った	52	42	6	0	31
6. 実際に役にたつ内容であった	29	55	13	3	31
7. 他の人にも聴かせたい内容であった	19	52	23	6	31
8. 番組だけでは理解できないところがあった	19	61	16	3	31
9. さらに学習しようという意欲が起きた	16	64	19	0	31
10. 授業でこのような番組を使ったらよい	64	26	10	0	31

学生の反応：ビデオ視聴についての学生の反応は以下のとおりである（表6）。内容がわかりやすかったか(1)、関心のある内容であったか(2)、新しい知識を得ることが出来たか(3)、学習の参考になったか(4)、自分のためになったか(5)などの質問項目については肯定的回答が多かった。これは、学生の所属学科の専門的内容であったことを考えれば当然のことではあるが、学生達がこのビデオを通じて講義内容に強い関心を持ったことを示している。これは日常の講義では見られない種々の視覚教材が授業内容の理解に役だったことの反映とも考えられる。

実際に役立つ内容だったか(6)、他の人にも聞かせたい内容か(7)の問いに対しては事例1の場合と同じく、否定的回答も少なからず認められた。これは講義の内容が専門的な正確を帯びている上に、やや難解な理論や概念が含まれていたため、内容を正確に理解することが容易でなかったことの反映と思われる。このことはこの番組だけでは理解出来なかった所があったか(8)の問いに同意する回答があったことにも表れている。

このような番組を授業で使ったらよいと思うかとの問(10)に対して、事例1の場合と同じく、同意する回答が多かった。このことは学生達がビデオの内容に興味を持ち、ビデオ利用の意義をよく認めていたことを示唆している。このことはアンケートの末尾の感想や意見によって裏付けられている。また、学生達がビデオの内容に対して深い関心を示しただけでなく、ビデオの製作技術や編集技術にまでそれぞれの意見をのべていることは一つのビデオ製作として種々のレベルでの改良の必要性を示している。

#### 4) テキストの利用について

テキスト作成については、各回の講師が執筆を、テキスト担当部会が編集を、高知新聞企画出版部が製作を担当した。カラー写真を多くとり入れることにより、テキスト単独でも楽しい1つの読み物となるよう工夫が加えられた。視聴者のスクーリングの後でテキストが分かり易かったか否かについてのアンケートを実施したところ、分り易いが38%、難解であったが38%、どちらとも言えないが22%であった。ビデオの場合のそれぞれ61%、22%、16%に比べ、テキストについては難解という回答がかなり多かった。この結果は、テキストではカバーできない各講座のテーマ自体の難解さがテレビというメディアの利用によりある程度は解消できることを示唆している。

#### 4. おわりに

本研究はテレビ公開講座を大学の授業に利用した場合の効果について調査を行ったものである。事例1と事例3はそれぞれ理学部と農学部専門科目の少人数の授業に利用したケースである。事例2は教養科目の授業に利用したケースである。これらの事例から、専門科目と教養科目の違いはあっても、通常の授業では見ることの出来ない視覚教材による多くの知見により、学生たちが何がしかのインパクトを受けた様子をうかがうことができた。

テレビ公開講座は各専門分野の科学者とテレビ製作の専門家が多大な時間、労力、費用、きめの細かい準備の上に作りあげられた充実した作品である。従って、一般の教室の授業よりもおもしろく視聴できたと言う学生達の評価は当然のことであろう。テレビ講座の評価の重要なポイントは単に視聴しやすかったとか面白かったというだけでなく、ビデオ視聴した後で、今まで以上に関心を深くもつようになったか、新しい概念形式に役立ったか、知的好奇心のレベルアップにつながったかと言ったことにあると思われる。

この点について、ビデオ利用の授業を担当した教官はアンケート以外にも学生達個々の感想を直接聞いており、これらのビデオが学生達の知的好奇心に与えたインパクトを実感している。本調査においては公開講座のビデオ利用の有用性について、再確認をする結果となった。今後、テレビ公開講座が単に視聴覚教材を用いた講義の域に止まるのではなく、ドキュメント風の映



像を多用して、レベルの高い内容をより平易に編集し、科学教育の発展に結びつけて行くことが望まれる。

表 7. ビデオ視聴後の感想

---

事例 1. (海面と陸地面上の大気の相互作用—土佐の気象—)

- 教授たちには辛いことらしいけど、今までの研究の成果を発表することは自分たちには大きな影響を与えるので、どんどんやってほしい。
  - コリオリ力や地衡風など知識として知っているのでわかりやすいが、一般の人には地衡風などわかりにくいところは少し説明が必要でありそうに感じた。
  - もう少しゆっくりと丁寧にやったほうが理解しやすいと思う。
  - 自分のすすみたい分野ではなかったが、興味深いところもあって、良かったと思う。もっと実験している所を見せてもらいたい。
  - NHKの番組のようにCGを利用したような動きのある映像をもっと使ってほしかった。また専門用語の使用が多すぎるように思います。
  - 説明をもう少しゆっくりやってほしい。
  - 図などが多くあり、わかりやすかった。
  - 真水の下を泥水がはうように流れていく様は感動ものだった。
  - 放送のため短時間に多くの内容を詰め込んでいて補足説明が必要だったり、内容を理解しようとしている内に次へ進んでしまうので、頭に残るようなことが少なかった。
  - 海上で、暖流と寒流のぶつかる所では、寒流から暖流へ向けて海風は吹かないのでしょうか？そのようなどころではよく霧が出ると聞きますから写真に撮れませんか？
  - テレビの中で図を動かすなどして説明してもらうととてもわかりやすいと感じた。
  - テレビやビデオも使って、講義を受けたが理解しやすく興味がより湧く思いがします。
- 

事例 2. (海に向かって成長する四国—四万十帯付加体—)

- 枕状溶岩の出来かたが印象的だった。始めてみたのでおもしろかった。
- 非常にわかりやすかった。
- ビデオをどんどん活用してほしい。
- 映像をともなった説明がわかりやすかった。
- 実際形成されていく岩石の様子が見られるとすごくわかりやすい。
- 本などで見るよりわかりやすかった。
- 普通の講義ではあまり使用されないVTRなどがあって講義だけよりもおもしろかった。
- しゃべりが聞こえにくい所があった。(声が小さいという訳じゃなく)
- 教授を2人ならべて出演させるのは結構だけど一人の人が喋っている間、もう一人の人がカメラに写らないのはかわいそすぎと思った。
- まだまだ地学に関する知識が少ないので、理解するのに苦しかった。
- 実験やVTRが使われていてわかりやすかった。
- 実際の映像が見られるのでわかりやすかった。
- テレビ出演にもっと慣れなければタレントになれないぞ、はた。君には才能がある。もっとがんばれ。高知大の星となれ。
- 静岡県東部の富士川から砂が四国沖に流れてくることには非常に興味を覚えた。
- 付加体についての説明がもっとほしかった。
- 土佐の一本釣りが見たい。(第8回のことか)
- テレビ番組を使用することによって、視覚的にわかりやすくなる部分も多いと感じた。
- 大変わかりやすい番組だった。映像を使うことにより、視覚に訴える講義も分かりやすくて良いと思う。
- 実際の映像など使うところが良かった。
- よくわからなかった点が映像を見て、わかるようになった。
- 高知大学生としてうれしくなりました。実験の映像が入ったことで、言葉よりもかなり理解が出来た。

授業でも使用すると良いと思う。

- 実験で南海トラフがどのように出来るかが映像で見られたのが大変わかりやすく良かったと思います。
- 映像を示しながらの解説なのでわかりやすかったが、1つの事柄についてもっとよく教えてほしい。
- この番組は実物を見せてくれたりしてわかりやすかった。
- とてもわかりやすかった。
- 先生緊張してましたね。
- プレートが移動して地層が形成されていく様子などはアニメーションなどを使うととてもわかりやすくなると思う。専門用語の説明を言葉としてだけでなく文字として表示すればもっと良くなるのでは・・・
- 高知の自然に脱帽した。
- 高知は自然が身近にありすぎると思った。(人林が多すぎるのも困るが・・・)
- 全体的に素人の僕でも分かり易かったので良かったと思う。
- 授業を受けて少しばかりの知識を持っていたので番組を意欲的に見る事が出来た。
- もっともっと具体的な説明がほしい。
- 今まで分からなかったことが分かったので良かったと思う。
- このような内容は映像だと本当に分かり易いのでとても良いと思います。
- 実験や映像を用いて説明していたので分かりやすかった。
- 岩石の種類等については外に行かなくて見る事が出来たので良かったが、一方的に話されるだけなので分かった部分と分からなかった部分が出来た。
- 地方局らしいセットだったので少し悲しかった。プリントも大きくするくらいの芸がほしかった。
- この授業を受けて初めてビデオを見たがこれからもこのような番組を見せてほしい。
- 暗くてノートがとれないのが不便である。
- もっと言葉をはっきり言ってほしい。聞き取りにくいところがあった。
- 難しかった。
- 映像がもりこんで分かり易い部分もあったが、少し速くて分かりにくい部分もあった。
- 授業などでは出来ない実験などをやっているの理解しやすいと思います。映像を見る方が授業よりも分かりやすいです。
- タービダイトやメランジュという言葉聞いても実際どうゆうものなのか理解できない所があったがこの番組によって、少し理解できたと思います。授業に活用できる番組だと思いました。分かり易いとても楽しく勉強できた。講義でもビデオを駆使すればもっとおもしろいと思った。
- 比較的分かり易かったが、言葉だけの所があるのでその点をもっと映像を入れて自分が想像して分かるようなものにしてほしい。

---

### 事例3. (生態ピラミッドと栽培漁業)

- 資料の映像があってわかりやすかった。  
最後に今日のまとめのような内容を書いたデロップを出してもう1度文字で確認させてくれるともっと良かった。
- 少し速くて分かりにくいところもあったのでもう少しゆっくりだと良かったと思う。
- おもしろかった。
- 新しい知識が得られ、学習の参考になった。
- 資料が豊富だった。
- おもしろかった。太平洋南区があんなに貧弱な海域とは思わなかった。
- 画面が単調。
- 知ってる人が出てるのは見てて楽しかった。
- とても参考になった。
- 一般の人に対する解説にしては難しすぎると思う。
- テレビの時間帯が悪すぎた。いつのまにか終わっている時間で気がつくまもなく終わっていて残念だった。より一層、意欲が湧いた。
- ためになっておもしろかった。
- 映像を見る前に勉強していたのでわかりやすかった。

- 一度見ただけでは、理解できないところも少しあった。
  - 栽培漁業と呼ばれることは最近のことのように思えるけど、実際はかなり前から行われているんだな  
と思った。
  - 後半少しだれてしまった。
  - 理解できる内容もあったが、あまりわからない所も少しあった。
  - 余剰生産力の概念が未だにわからない。マグイの産卵に興味を持った。
-

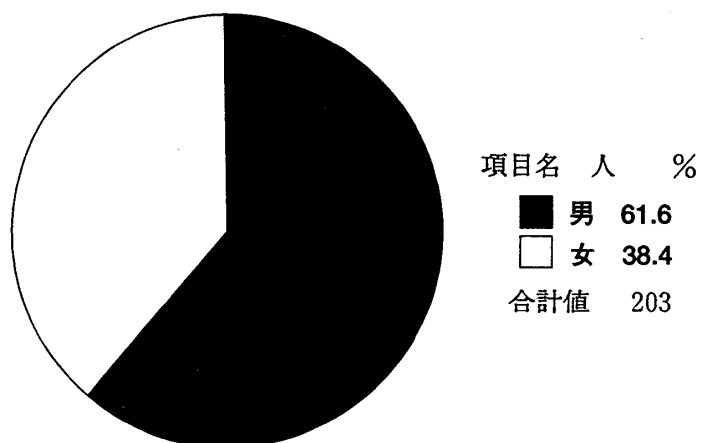
# 四国地区国立大学放送公開講座

アンケート調査

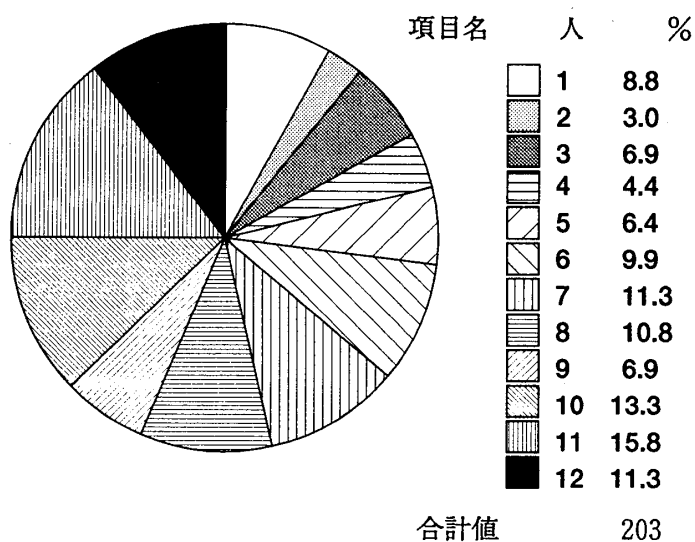
テレビ科目

「黒潮のめぐみ」

問1. あなたの性別を、お答えください。

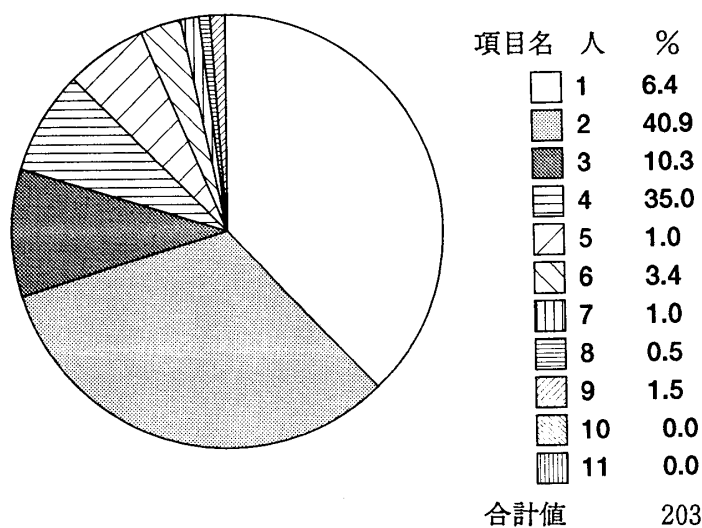


問2. あなたの年齢を、お答えください。



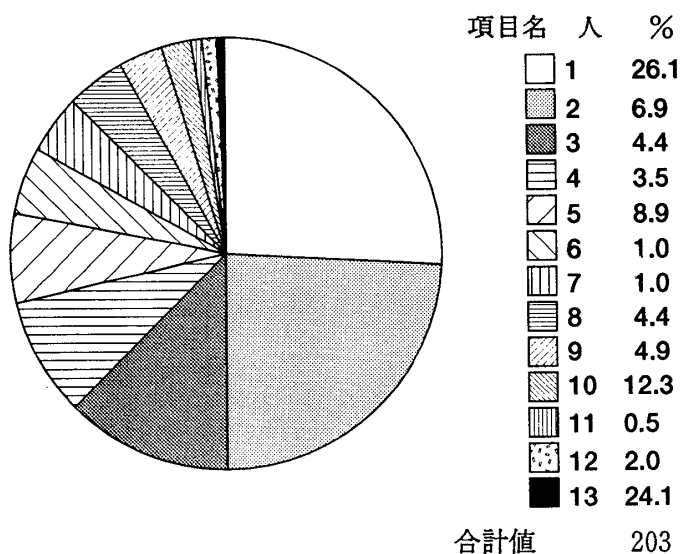
01	～19歳	02	20～24歳	03	25～29歳
04	30～34歳	05	35～39歳	06	40～44歳
07	45～49歳	08	50～54歳	09	55～59歳
10	60～64歳	11	65～69歳	12	70歳～

問3. あなたの学歴は、どれに当てはまりますか。



- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 01 小学校・新制中学校・旧制高小卒 | 02 新制高校・旧制中学・旧制高女卒 |
| 03 短大・新制高専卒        | 04 大学・旧制高校・旧制専門学校卒 |
| 05 大学院卒            | 06 専修学校・各種学校卒      |
| 07 短大・高専在学中        | 08 大学在学中           |
| 09 大学院在学中          | 10 専修学校・各種学校在学中    |
| 11 高校在学中           |                    |

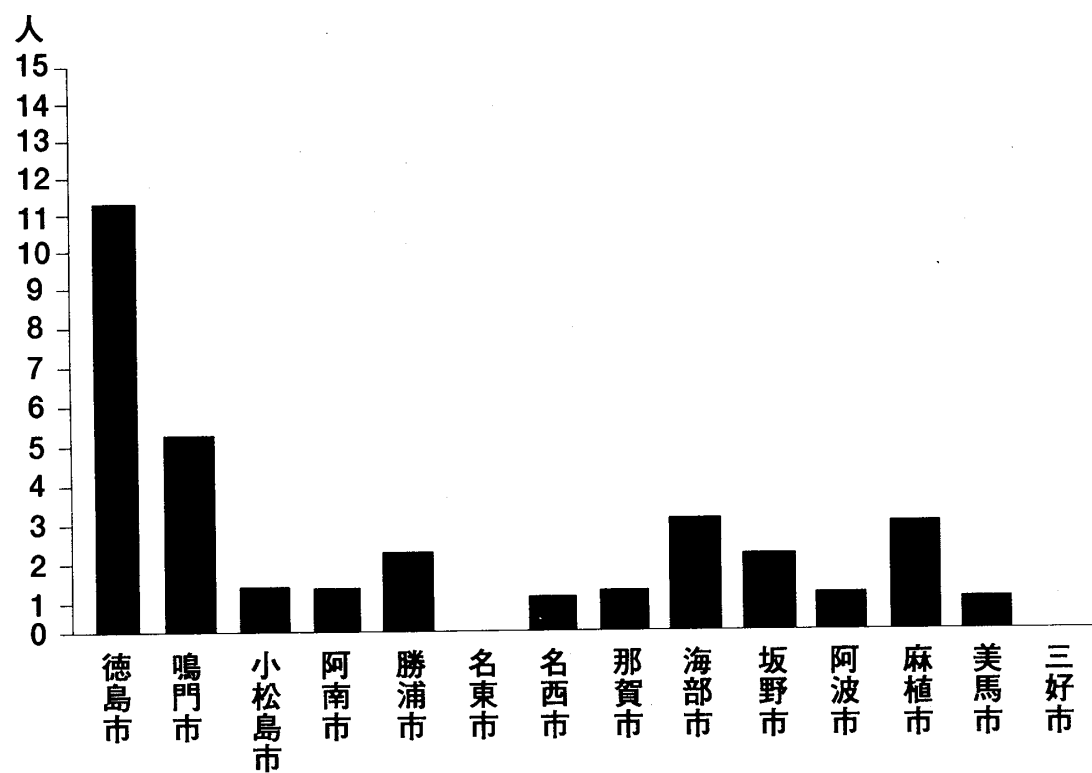
問4. あなたの職業は、どれに当てはまりますか。



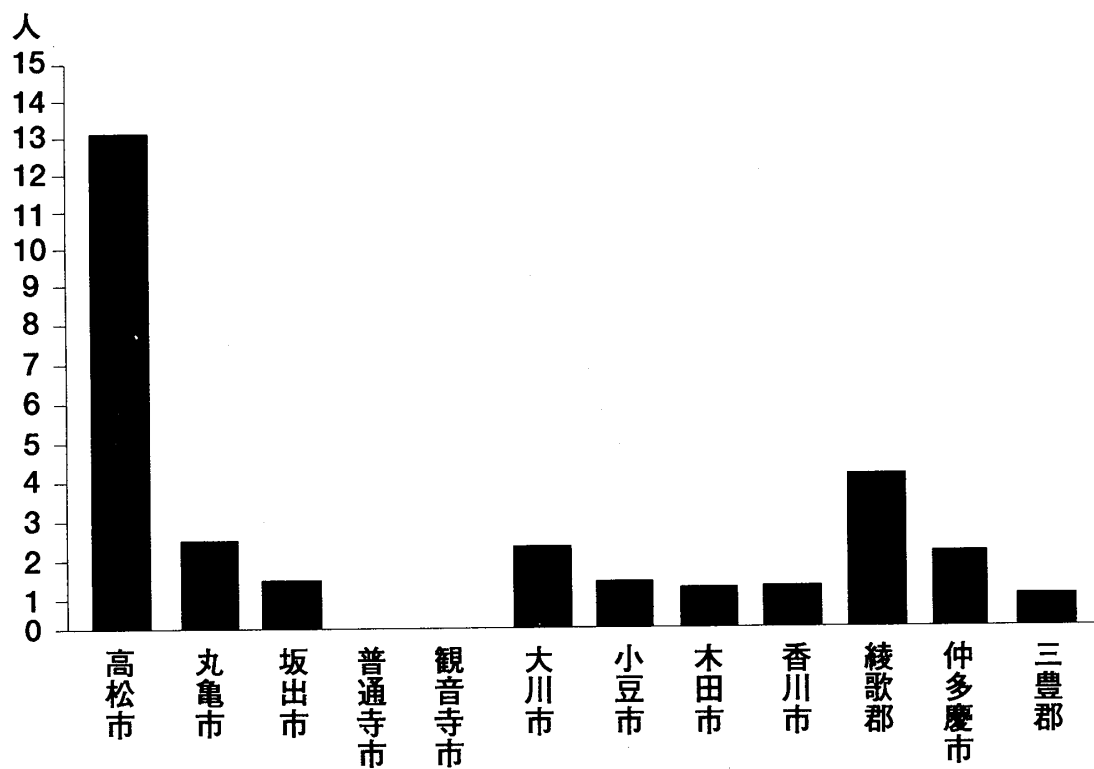
- |                                       |
|---------------------------------------|
| 01 事務系の職業（会社・官公庁等の被雇用）                |
| 02 専門・技術系の職業（会社・官公庁等の被雇用）             |
| 03 販売・サービス系の職業（会社・官公庁等の被雇用）           |
| 04 現業・技術系の職業（会社・官公庁等の被雇用・工具・運転手・大工など） |
| 05 教育職・研究職（学校教員・大学教員・研究所研究員など）        |
| 06 大企業・官公庁等の経営者・幹部職                   |
| 07 自由業（開業医・弁護士・僧侶など）                  |
| 08 中小企業・自営業（工場・商店・サービス・塾など）等の経営者      |
| 09 農林漁業（自営者・家族従事者を含める）                |
| 10 主婦                                 |
| 11 家事手伝い                              |
| 12 学生                                 |
| 13 無職                                 |

問5. あなたの住んでいる地域は、どこですか。

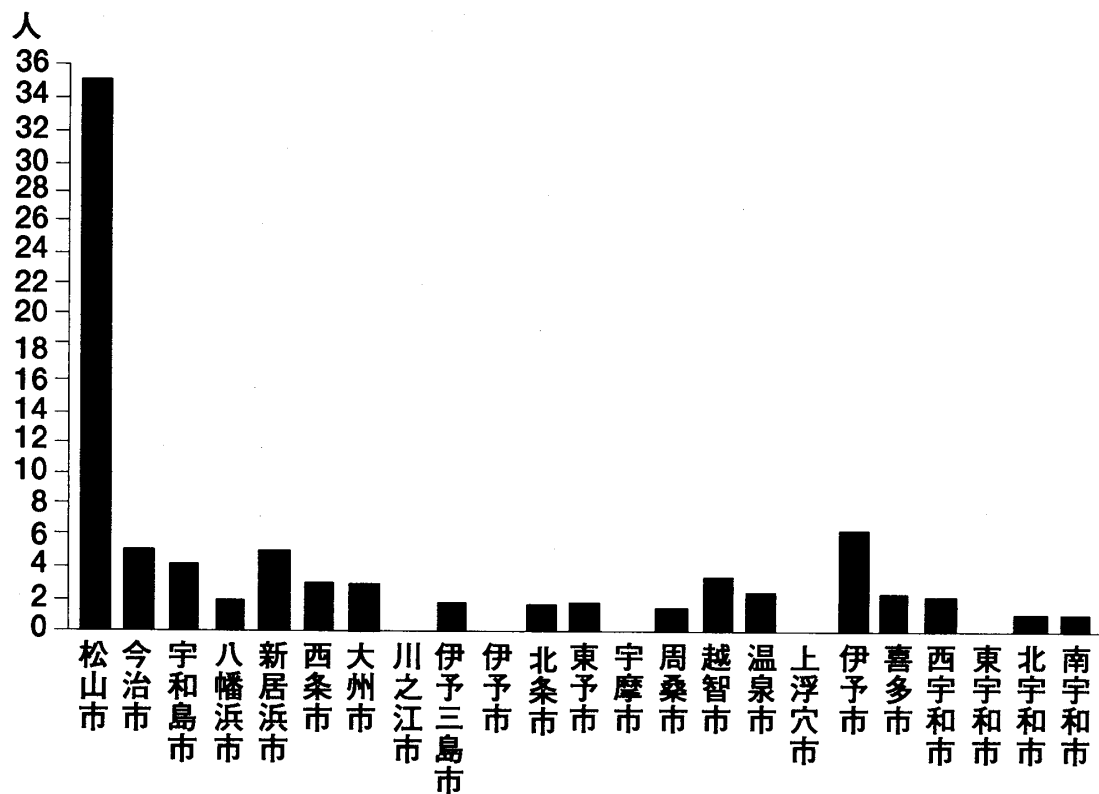
〔徳島県〕



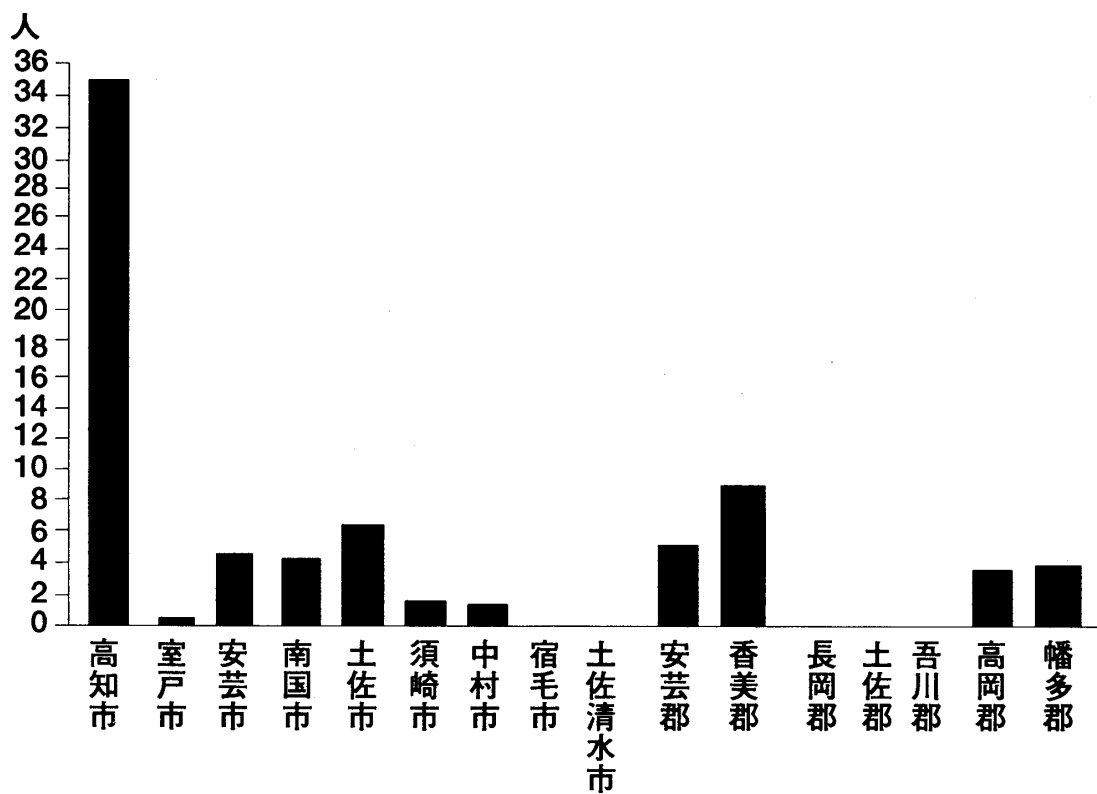
〔香川県〕



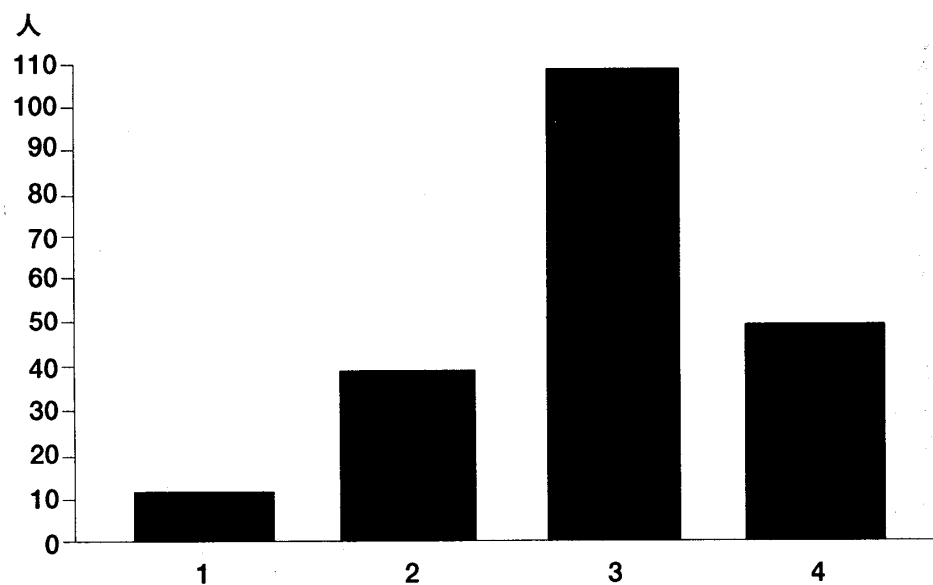
〔愛媛県〕



〔高知県〕

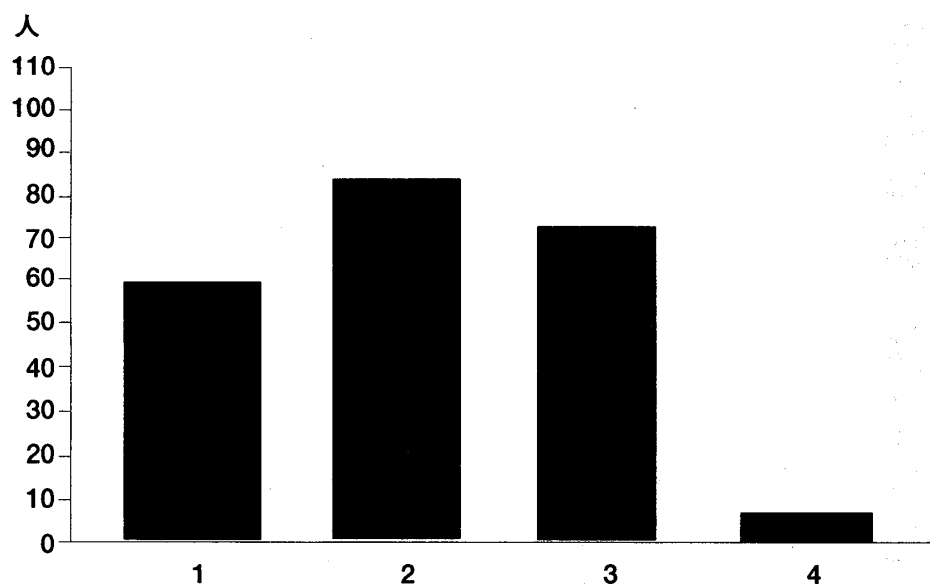


問6. あなたは、受講された公開講座に関連したテーマについて、受講前、どの程度の関心がありましたか。



1. まったく関心がなかった
2. あまり関心がなかった
3. 多少の関心をもっていた
4. 非常に関心をもっていた

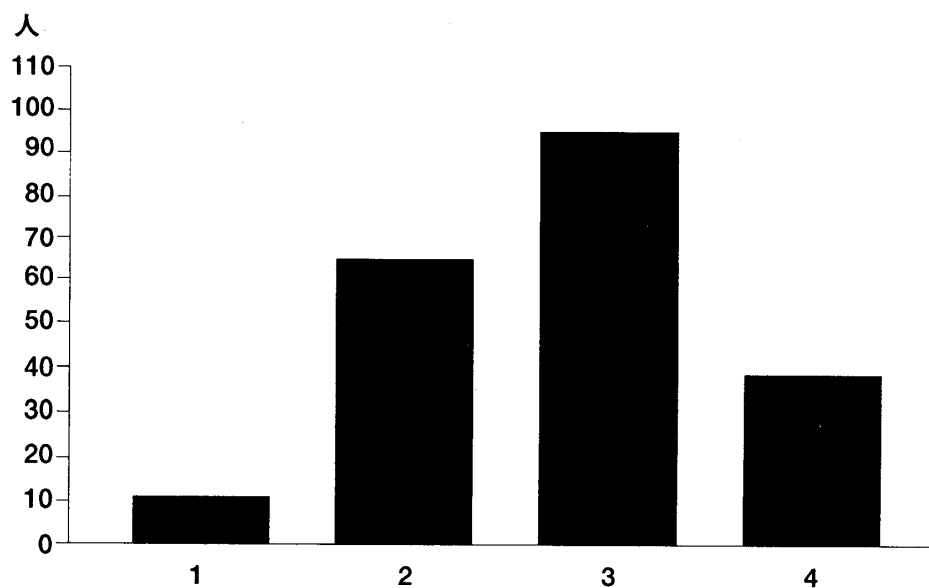
問7. あなたは、受講された公開講座に関連したテーマについて、受講前、どの程度の知識をもっていましたか。



1. ほとんど知識がなかった
2. あまり知識をもっていなかった
3. 多少の知識をもっていた
4. かなりの知識をもっていた

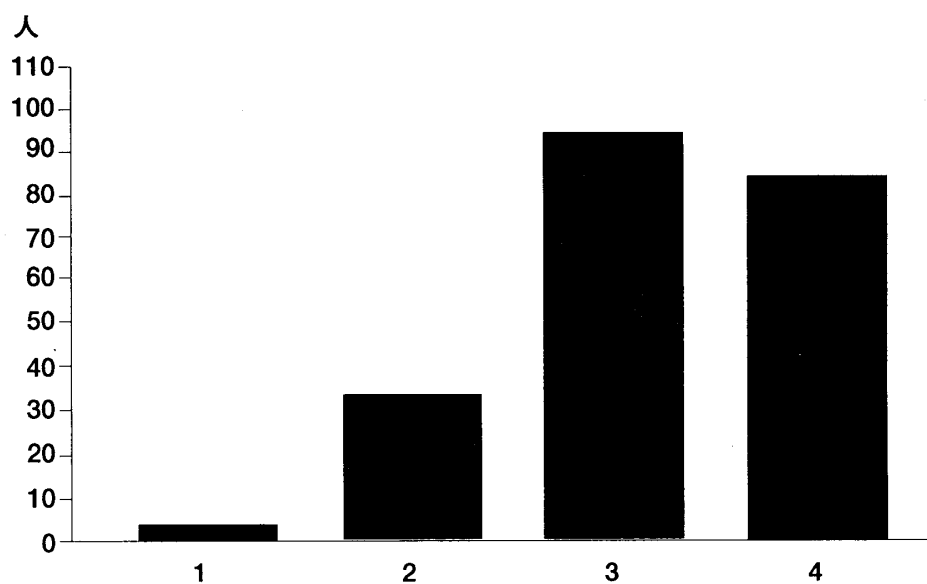


問8. あなたは、受講された公開講座に関連したテーマについて、受講前、あなたご自身にとって、どの程度重要だと思っていましたか。



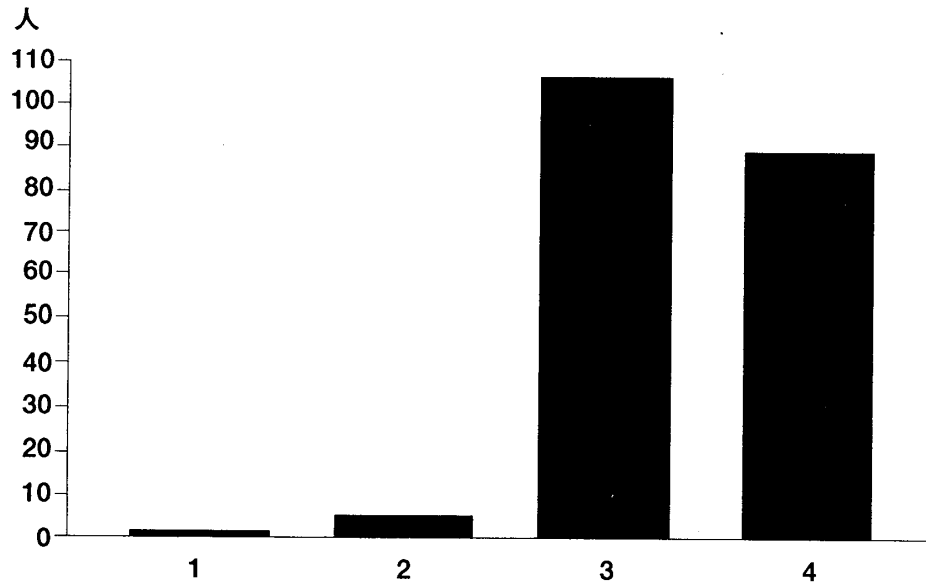
1. ほとんど重要だと思わなかった
2. あまり重要だと思わなかった
3. 多少、重要だと思っていた
4. かなり重要だと思っていた

問9. あなたは、受講された公開講座に関連したテーマについて、受講後、どの程度重要だと思いましたか。



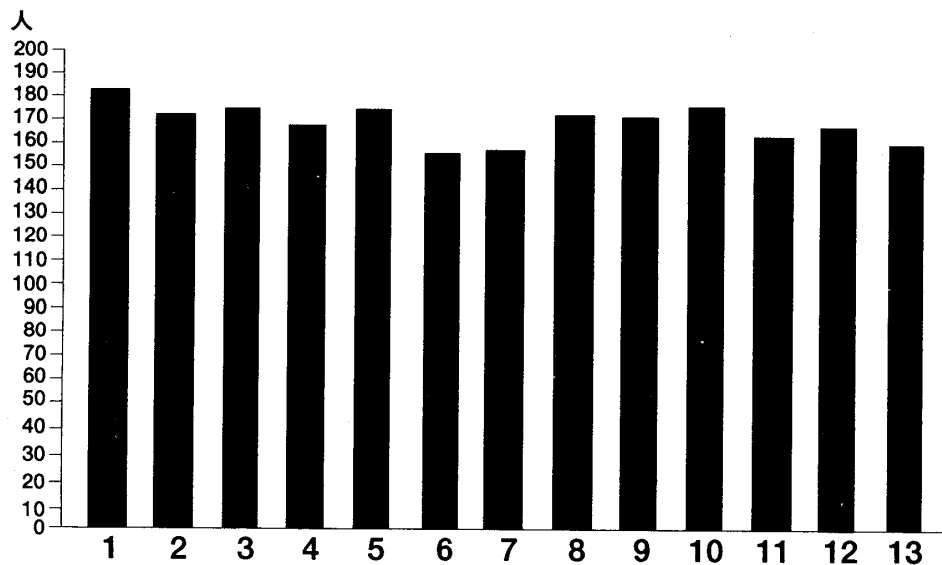
1. ほとんど重要だとは、思わなかった
2. あまり重要だとは、思わなかった
3. 多少、重要だと思った
4. かなり重要だと思った

問10. あなたは、受講された公開講座に関連したテーマについて、受講後、どの程度の知識が得られましたか。



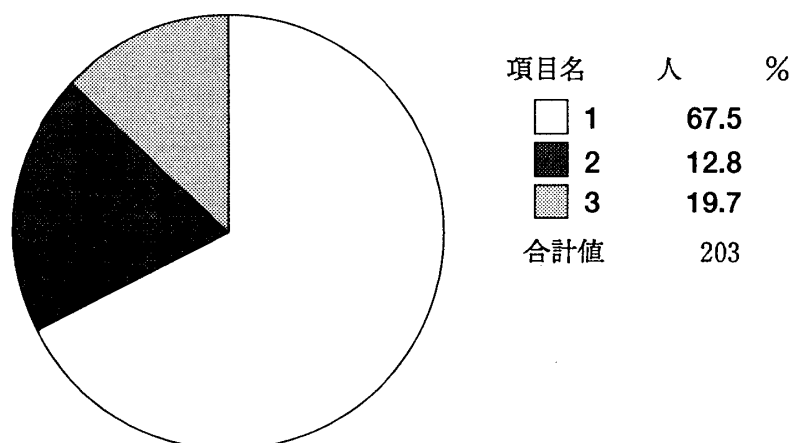
1. ほとんど知識が得られなかった
2. あまり知識が得られなかった
3. 多少の知識が得られた
4. かなり知識が得られた

問11. あなたが視聴されたテレビ番組は、どれですか。



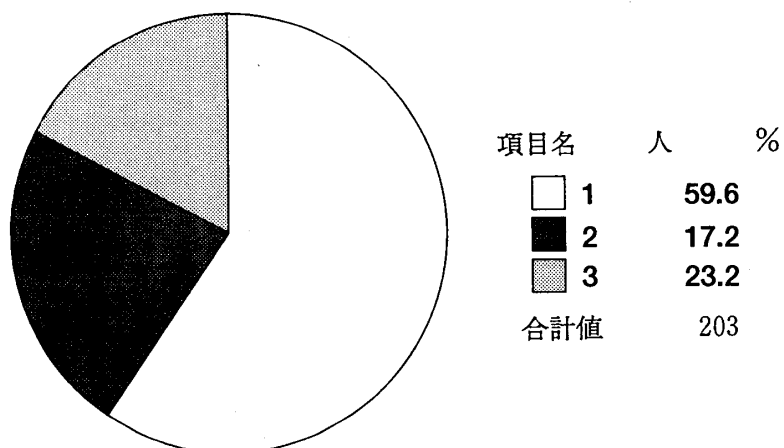
- 1 The kuroshio -そのふるまいと土佐湾への影響-
- 2 海面と陸地面上の大気の相互作用 -土佐の気象-
- 3 海は作られる -西日本周辺海域の新しい地殻変動-
- 4 海に向かって成長する四国 -四万十帯付加体-
- 5 黒潮からの贈り物 -その生物と人間のかかわり-
- 6 沖ノ島の盆・カサボコ
- 7 幕末土佐藩知識人の対外観の形成 -黒潮の彼方への知的関心-
- 8 土佐のカツオの一本釣り漁法と海洋資源
- 9 黒潮の生き物たち
- 10 黒潮の魚たち
- 11 生態ピラミッドと栽培漁業
- 12 深層海水 -豊かな海の資源をいかに利用するか-
- 13 黒潮・人・いきもの

問12. テレビ番組の内容は、どうでしたか。



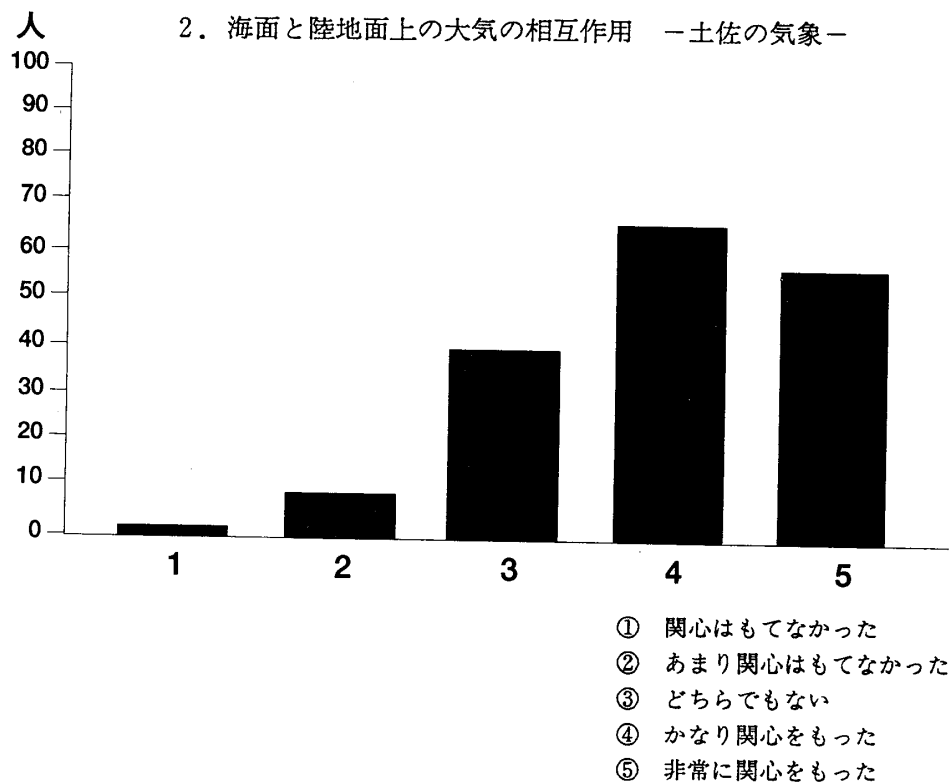
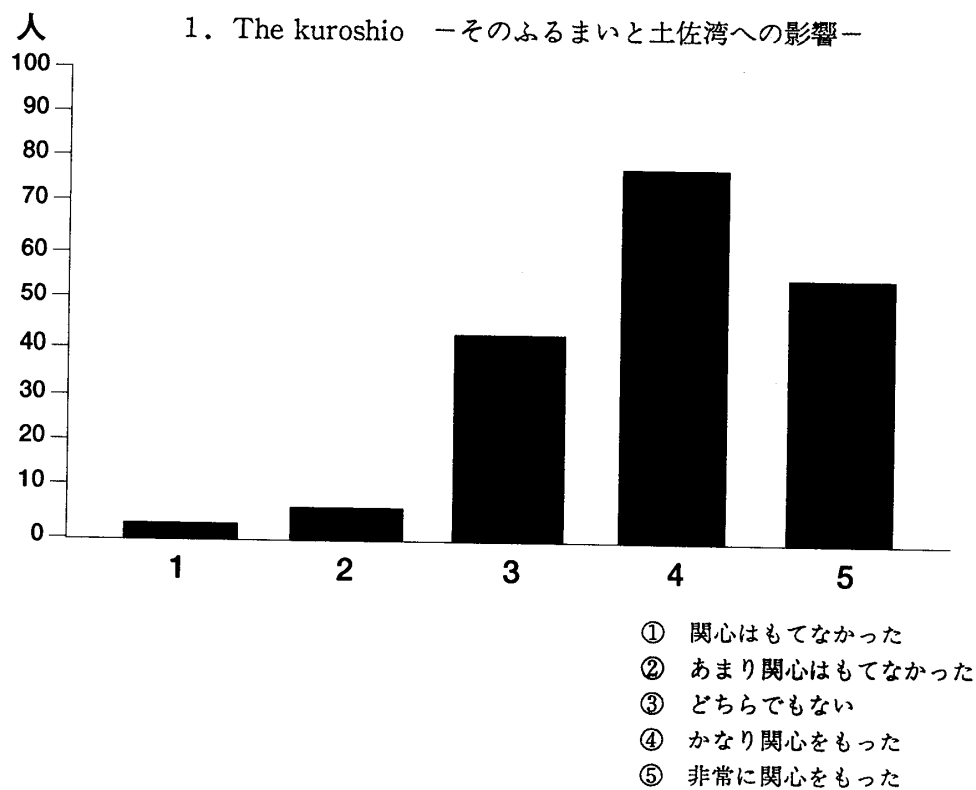
1. わかり易かった
2. 難しかった
3. どちらともいえない

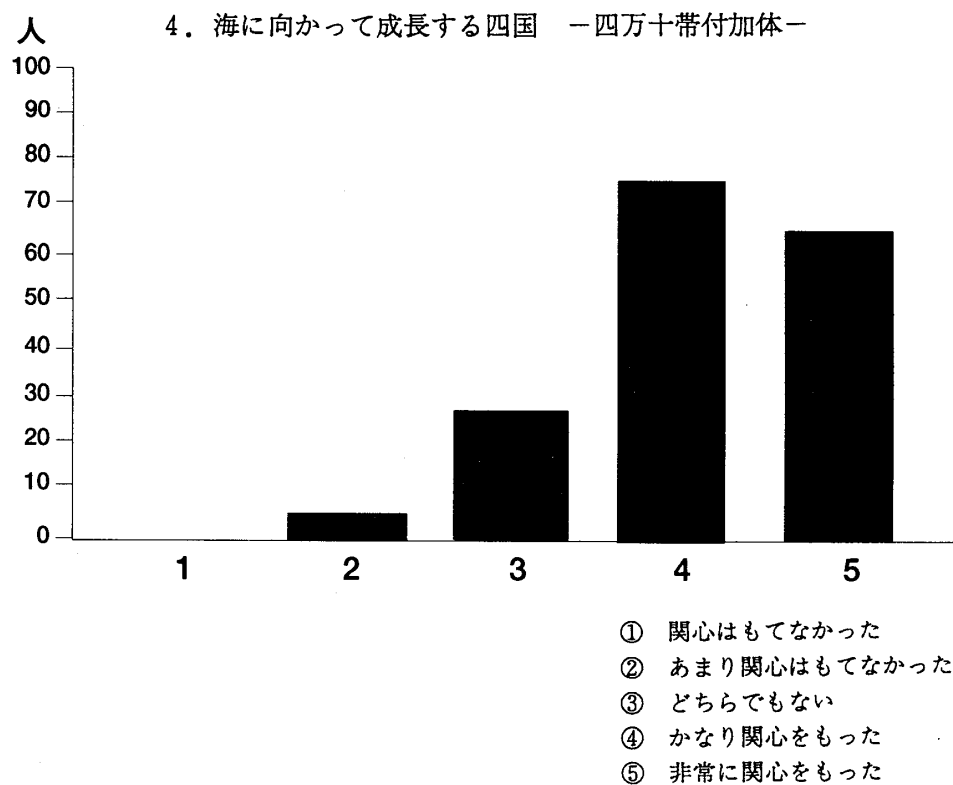
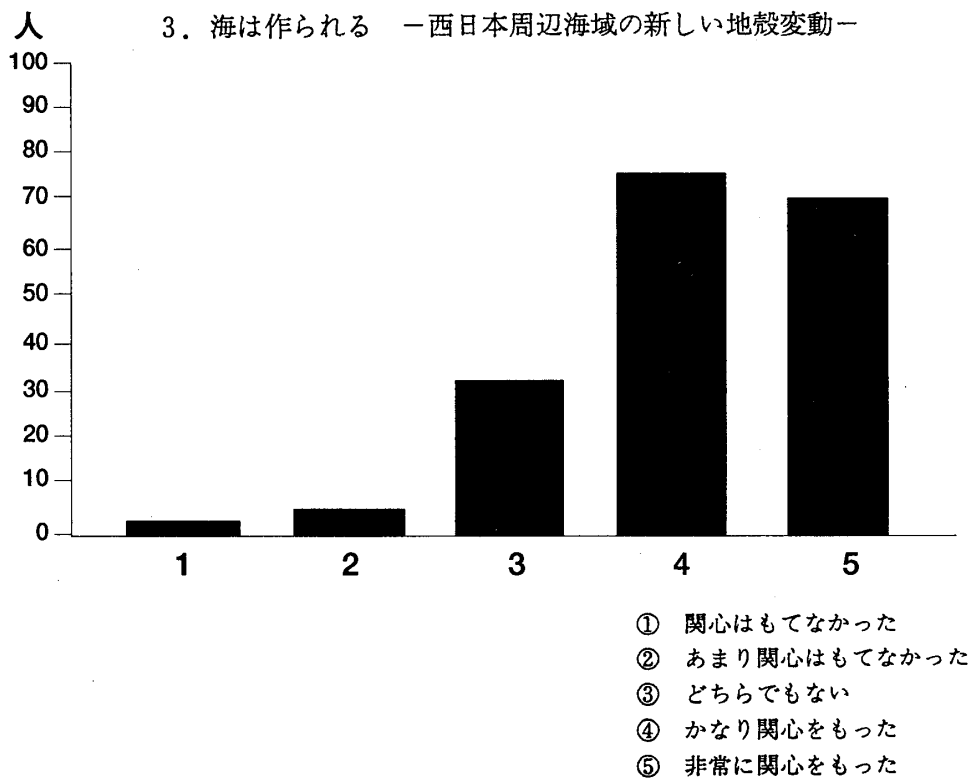
問13. テキストの内容は、どうでしたか。



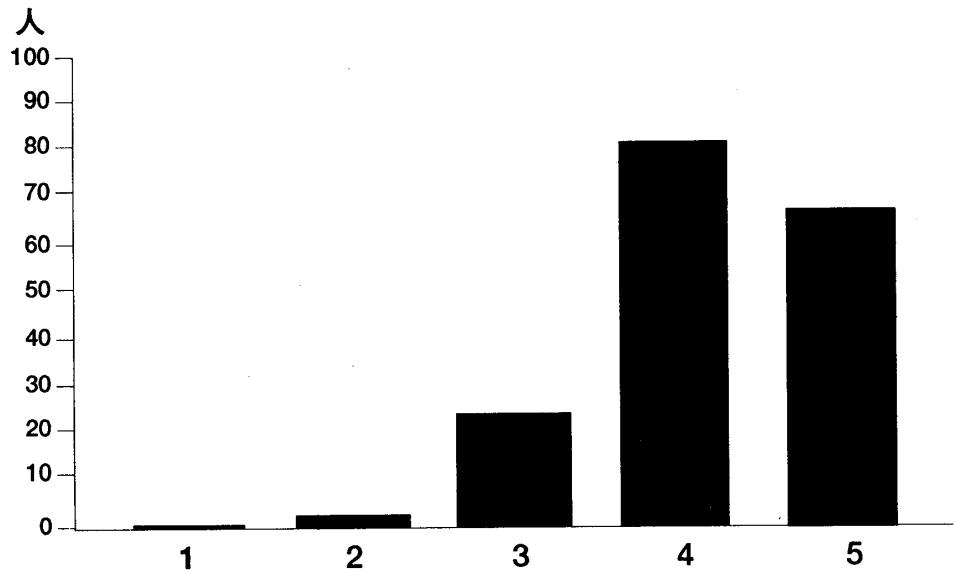
1. わかり易かった
2. 難しかった
3. どちらともいえない

問16. この放送公開講座テレビ科目を受講して、次の項目について、どれくらい興味をもったかを、お聞きます。



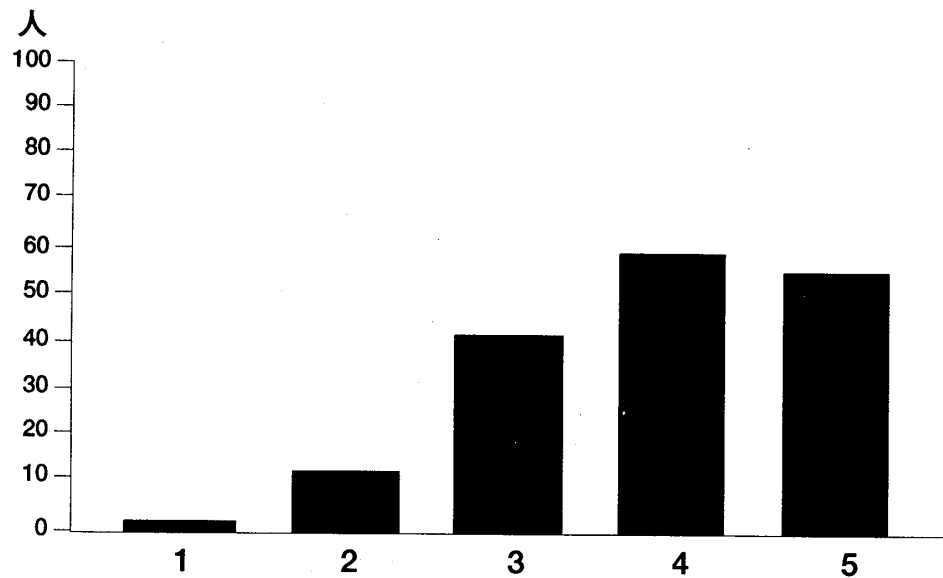


5. 黒潮からの贈り物 ―その生物と人間のかかわり―



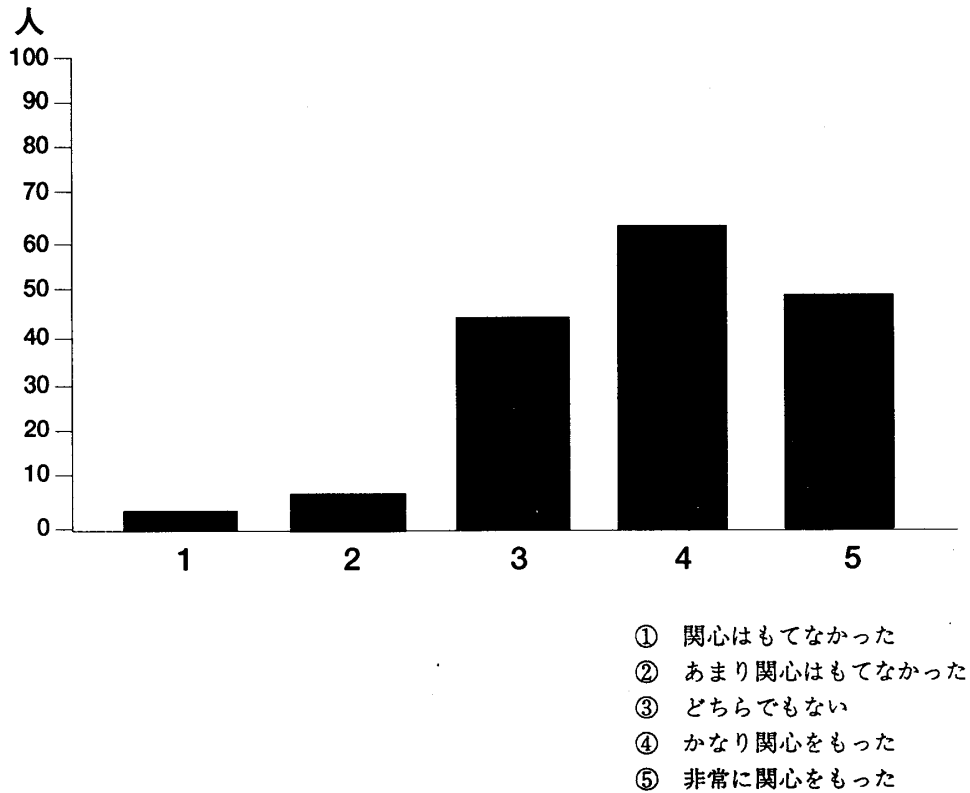
- ① 関心はもてなかった
- ② あまり関心はもてなかった
- ③ どちらでもない
- ④ かなり関心をもった
- ⑤ 非常に関心をもった

6. 沖ノ島の盆・カサボコ

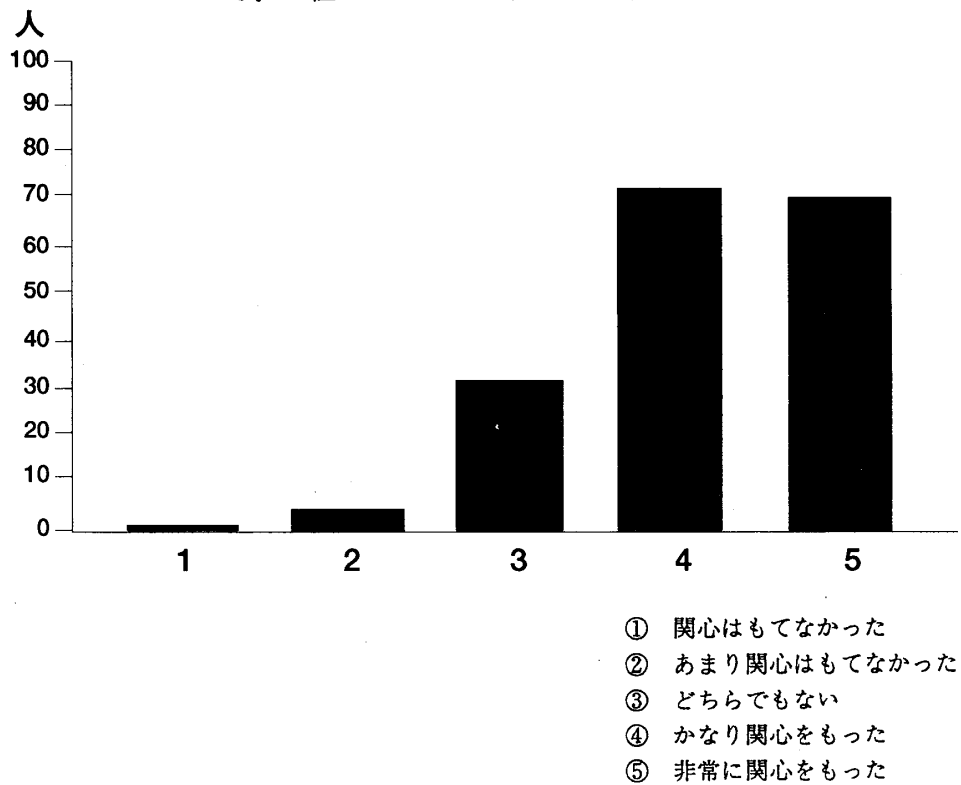


- ① 関心はもてなかった
- ② あまり関心はもてなかった
- ③ どちらでもない
- ④ かなり関心をもった
- ⑤ 非常に関心をもった

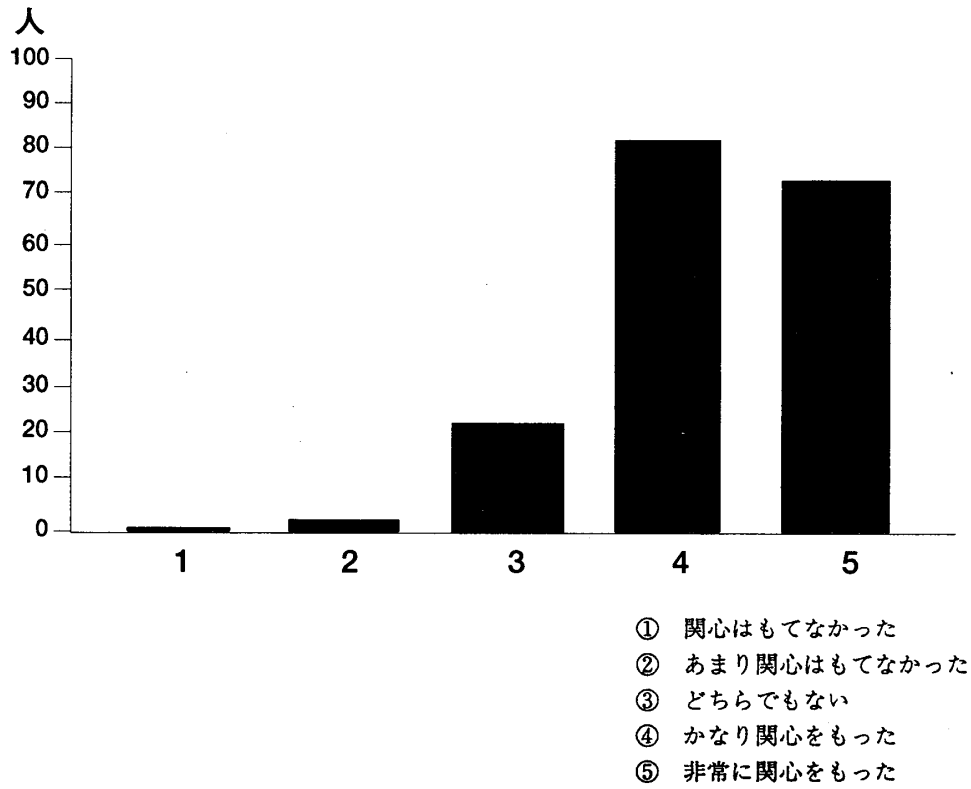
7. 幕末土佐藩知識人の対外観の形成 —黒潮の彼方への知的関心—



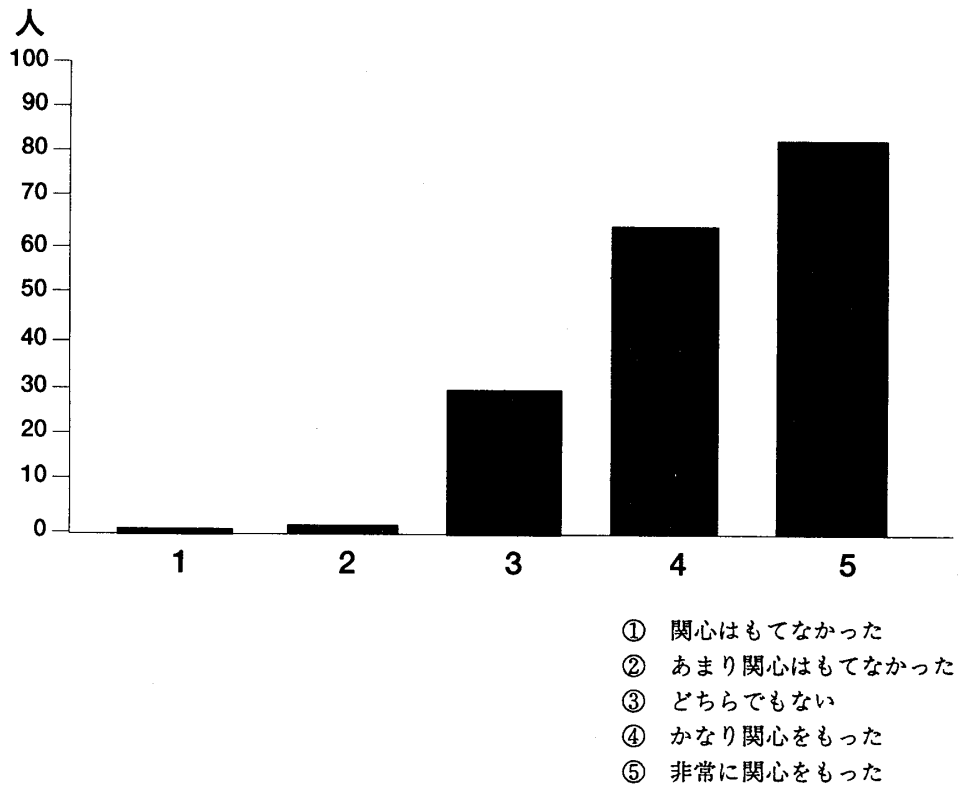
8. 土佐のカツオの一本釣り漁法と海洋資源



### 9. 黒潮の生き物たち

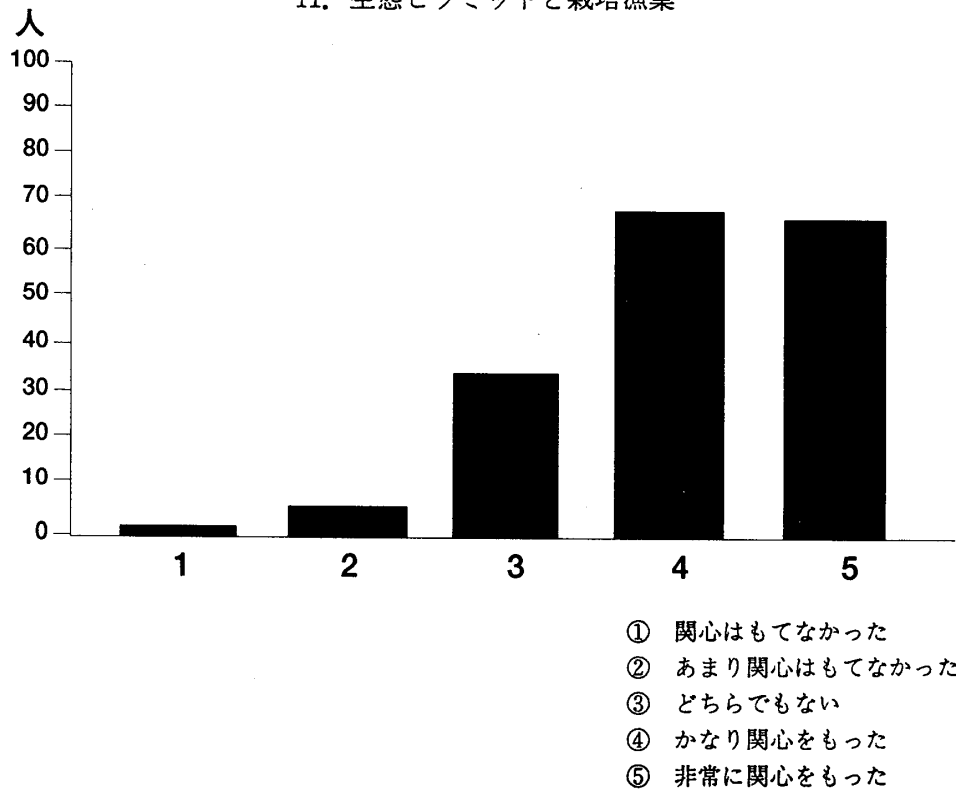


### 10. 黒潮の魚たち

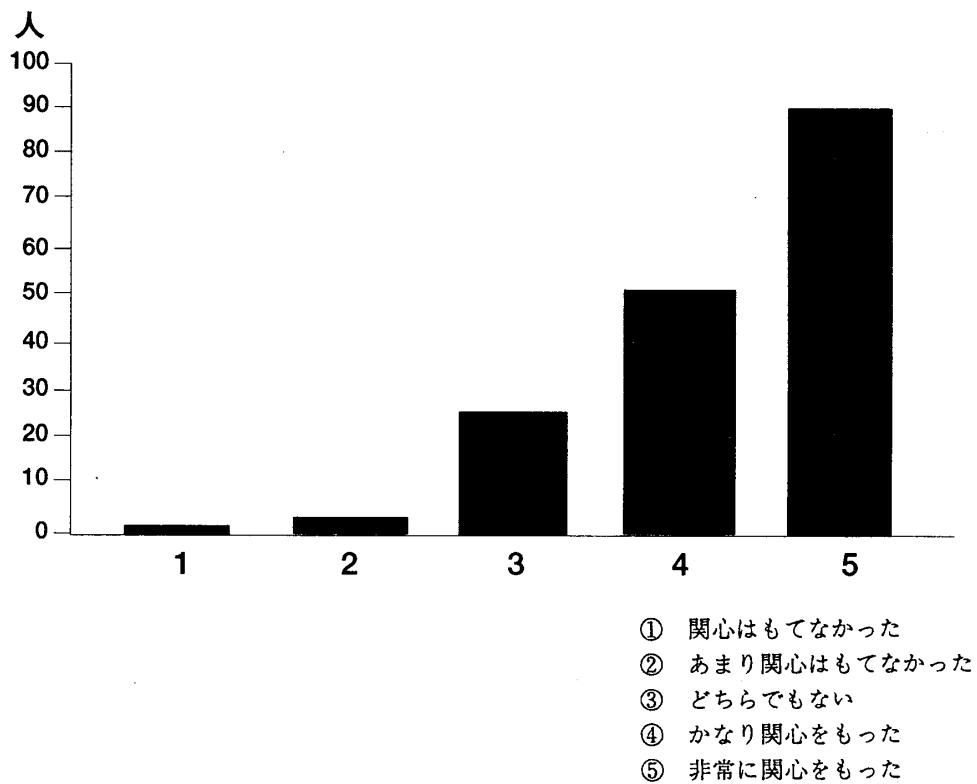




### 11. 生態ピラミッドと栽培漁業



### 12. 深層海水 ー豊かな海の資源をいかに利用するかー



13. 黒潮・人・いきもの

